

子どもたちの安全をどう守る

子どもたちを巻き込む重大な事故や事件が続いています。子どもたちを預かる学校としては、被害にあった子どもたちや保護者のことを思うと、とても胸が苦しくなります。

子どもたちの安全を守るにはどうしたらよいのか。それでも、多くの目で子どもたちを守ること以外ないのではないかと考えています。

多くのボランティアの皆さんに、朝子どもたちの登校を見守っていただいています。また、下校時刻に合わせて散歩をしてもらったり、家の前を出て「おかえりなさい」と声をかけていただいたりと、うれしくなるようなお話も聞かせていただいています。

先週の職員朝会で、事件を受けて「いかのおすし」の徹底と、集団登校と下校時について再度、各学級で指導するように話をしました。

「いかのおすし」とは子どもを守る防犯標語の一つです。この標語は子どもたちにも覚えやすく、学校でもよく使って指導しているものです。

「いか」…知らない人について「いか」ない
「の」…知らない人の車には「の」らない
「お」…連れていかれそうなときは、「お」おきな声を出す
「す」…危ないと思った時には、その場から「す」ぐ逃げる
「し」…普段と何か違うことがあったら、すぐ「し」らせる

その他にも、もし怖いと思ったら、こども SOS が表示してあるお店や近隣の家に駆け込む、防犯グッズを使うなど各学級で話してもらったところです。

毎朝、子どもたちとあいさつをするために、児童玄関に立つようにしています。気になるのは、集団登校になっていない班があるということです。子どもたちに事情を聞くと、高学年と低学年の歩く速さの問題であったり、集合時間に間に合わなかったりと様々です。

一人で登校すると危険度も大きくなります。集団登校ができるよう各登校班で考えていただきたいと思います。

下校時は、学年の終了時刻が違うため集団下校は普段は行っていません。一人で帰るのではなく、近い学年の同じ地区、同じ方向の友だちと一緒に帰ること、どうしても一人になる所は、周囲を注意しながら急いで帰ることなどを指導しています。

バス通学を含め、お子さんの登下校の状況について、様子を聞いてみてもらいたいと思います。

お子さんの命、保護者、教職員にとってもこれ以上に大切なものはありません。

